

# 平成23年度 豊かなむらづくり全国表彰事業 東北ブロック受賞団体の取組概要

## 【東北農政局長賞】

～幻の巨大魚が棲む大自然を友とし 人との絆を深め 山村文化を継承する古里～

受賞団体：大鳥<sup>おおとり</sup>タキタロウ村（山形県鶴岡市<sup>つるおかし</sup>）

### ◆むらづくりの背景・経緯

大鳥地区<sup>としおか</sup>寿岡集落にあった大泉鉱山が昭和54年に閉山したことにより、多くの若者が働く場所を求めて地域を離れていった。このことにより少子高齢化に拍車がかかり、農業面では、耕作放棄地や猿による畑作物の被害が増加していった。

このような状況の中、地域が消滅するという危機感が強まり、平成13年の中山間地域等直接支払制度の導入を契機に、集落の将来についての議論が行われるようになった。

話し合いの結果、「地域のよさを再確認しながら、大鳥の自然を活用して村内外の人々と交流を図る」ことを目的とした「大鳥タキタロウ村」の設立（H14）に至った。

「村」では、大鳥地区を構成する4集落のうち、松ヶ崎と寿岡の2集落全戸と、地域づくりに賛同する県内外の個人が村民となり、自然を活かした活動を行っている。

### ◆むらづくりの内容

#### ○農業生産面

耕作放棄地を無くし、活用できる土地は全て耕作するという考えのもと、観光ワラビ園、なめこ園、野菜農園の運営等を行っている。「村」で採れた山菜やきのこはイベント時に安価で提供して好評を得ており、近年はイベント時にかかわらず、業者や飲食店等からの注文も増えている。

また、「村」オリジナルの山菜料理レシピ集を作成し、イベント時に料理を振る舞ったり、作り方を紹介することで山菜料理の復活と若年層への継承につながっている。



観光ワラビ園

#### ○生活・環境整備面

春の山菜祭り、秋のきのこ祭りなどのイベントの開催や、農業・農村体験の受入等により、年間4,000人から5,000人が「村」を訪れている。

また、「村」の誕生により、市街地に転居しようと考えていた高齢者が、地元に残ろうとする意識が高まっている。



農業体験の様子